

TPP等から食料・農業・環境・地域を守る

秋田県民フォーラム開催

「食料・農業・環境を守る秋田県民会議」(JA秋田中央会、水土里ネット秋田などの農業関係、さらには、消費者、商工業界など、本県の各種団体で組織)の主催による「TPP等から食料・農業・環境・地域を守る秋田県民フォーラム」が、約1,000名の参加を得て、7月21日(木)、秋田市文化会館において開催された。

このフォーラムは、「TPPへの参加は、農業や医療、福祉、雇用、建設業などに影響を及ぼす」ものとして、その議論を深めることを目的に、3月に開催される予定であったが、直前の東日本大震災の影響で、同日まで延期となっていた。

大震災以降、TPPに関する議論が停滞していたが、震災復興のためTPP参加を求める声が経済界を中心に再燃したことや、当時の菅首相が「参加の是非を早急に判断する」という発言があったこともあり、同フォーラムの開催に至った。

ジャーナリストの堤美果氏が「TPPの真実～私たちが守るべきものとは～」と題して講演され、「TPPへの参加がどのような影響を及ぼすのか、医療、農林水産業など個々の分野で反対するのではなく、団結して、真実を伝える必要がある」と訴えた。

また、秋田県立大学のTPP問題研究会の佐藤了教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションも行われ、堤氏、秋田商工会議所、県生活協同組合などの代表者がパネリストとなり、「TPP参加による県内への影響」について意見が交わされた。

最後に、TPP参加は、農業だけでなく他産業に及ぼすことを踏まえ、「震災からの農林水産業の復興」、「地域を守るため、TPP参加には断固反対」などの、同フォーラムの申し合わせを行った。

平成23年度土地改良関係団体役員講習会の日程決まる

支部(管内)	月 日	開 催 地
鹿角、大館・北秋田(職員)	11月10日(木)	大館市「秋田県北部シルバーエリアコミュニティセンター」
平鹿(役職員)	11月10日(木)	横手市「松興会館」
雄勝(役職員)	11月11日(金)	湯沢市「湯沢グランドホテル」
山本(役職員)	11月14日(月)	三種町森岳「丸富ホテル」
仙北(役員)	11月16日(水)・17日(木)	仙北市 田沢湖高原温泉「プラザホテル山麓荘」
鹿角、大館・北秋田(役員)	11月17日(木)	北秋田市「合川農村環境改善センター」
由利(役職員)	11月21日(月)・22日(火)	由利本荘市「ホテルフォレストア鳥海」
秋田(役員)	11月24日(木)・25日(金)	秋田市「秋田温泉さとみ」
秋田(職員)	12月2日(金)	秋田市「秋田温泉プラザ」
仙北(職員)	12月6日(火)・7日(水)	仙北市 田沢湖高原温泉「プラザホテル山麓荘」

《共通テーマ》 ・維持管理計画書変更に係わる手続き ・農業用施設賠償責任保険及び団体傷害保険に係わる最新情報
 ・「各支部フリー講習」 ・管内農業農村整備事業の現状報告 ・秋田県農村災害ボランティアに係わる情報提供

秋田県農地・水・環境保全向上対策 地域協議会が臨時総会を開催

■施設の長寿命化対策(向上活動支援)に取り組む



10月5日、秋田市(ルポールみずほ)で「平成23年度秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会臨時総会」が、23会員団体(会員数30団体)の出席で開催された。

冒頭の挨拶で、黒子高夫会長(水土里ネット秋田専務理事)が「先週、国の来年度予算の概算要求案が出され、農業農村整備予算は対前年比104%の2,222億円となっている。また、本事業に関係した農地保全管理支払交付金は、28年度までの二期対策に取り組むことを明らかにした上で、251億円を計上している。本協議会としては、

県内すべての活動組織が二期対策への移行を望んでいたのも、長寿命化対策の枠組みも出来ることから、一定のハードルを越えたと考えてはいるが、年末の政府決定まで注意深く見守って行きたい。本日は今年4月の事業制度の改正に伴う交付要綱、実施要綱及び実施要領などの改正に関連した議案について、ご審議をお願いしたい」と述べ、関係者の理解と協力を求めた。

引き続き、提出議案について協議が行われ、いずれも事務局提案通りに承認された。

農地・水・環境保全向上対策は今年4月の改正で、営農活動支援が「環境保全型農業直接支援対策」として独立し、これまでの共同活動支援に向上活動支援が追加され、名称も「農地・水保全管理支払交付金」に変更されており、県では、事業制度の改正に伴い新たに追加された、農地周りの水路・農道等の長寿命化対策を行う「向上活動支援交付金」を、今年11月から交付することとし、予算補正の措置を講じている。



【担当・問い合わせ先】 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会事務局
水土里ネット秋田 総務企画部内 TEL.018-888-2721 FAX.018-888-2834

秋田県土地改良事業団体職員会

■平成23年度職員セミナー(新人研修)を開催

8月31日、本会「第1会議室」で秋田県土地改良事業団体職員会(鈴木英弘会長)の「平成23年度職員セミナー(新人研修)」が、会員59名の参加を得て開催された。

セミナーは、鈴木会長の挨拶の後に、本会の水戸常務理事が、「これからの水土里ネット『土地改良区』から『地域管理センター』へ」と題し講演を行い、「県内土地改良区は300名を超える職員数となっており、昨今、不祥事も見られることなどから、国による本会の132条検査では、統合整備を主導的に進めるよう指導を受けている。また、国営造成施設を管理している土地改良区と、それ以外では格差があり、組織を大きくすることにより土地改良区の新たな役割に対応することができる」などと述べた。講演内容は以下のとおり。

1. 土地改良区の設立
2. 土地改良関係法の変遷
3. 土地改良区の現状と展望
4. 土地改良区職員としての必要なスキル
5. 秋田県のこと(秋田県農林水産業の概要から)



平成23年度

「21創造運動大賞東北地方選考委員会」が開催される!!

— 本県から水土里ネット南旭川が参加 —



8月25日(木)、仙台市(KKRホテル仙台)で「平成23年度21世紀土地改良区創造運動大賞東北地方選考委員会」が開催され、今年度の東北地方大賞並びに中央選考委員会への推薦地区(2地区)が決定した。

大賞の選考方法は、都道府県水土里ネットによる第一次選考、農政局ブロック単位による地方大賞並びに中央選考委員会への推薦地区(最大2地区)の決定、中央選考委員会による21創造運動大賞の審査・決定となっている。

当日は、東北各県水土里ネットより推薦された4水土里ネット(岩手県、福島県は辞退)が、それぞれ10分間のプレゼンテーションを行い、その後約10分間、選考委員からの質問に回答するという形式で行われた。本県推薦の水土里ネット南旭川(横手市)は3番目にプレゼンテーションを行い、4名の選考委員から役職員や組合員の運動への取組体制、今後の運動に対する展開方向などについて質問を受けていた。

審査の結果、本県の水土里ネット南旭川は「奨励賞」となり、中央選考委員会への推薦はされなかったが、地元小学校や農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携した取組は、地域と共に歩む水土里ネットとして今後の運動展開が期待されている。



東北地方選考委員会選考結果

- **地方大賞** 水土里ネット三郷堰(山形県)、水土里ネットわたり(宮城県)
- **奨励賞** 水土里ネット青森北部&青森第二北部(青森県)、水土里ネット南旭川(秋田県)

「どろんご学校 in 東福寺」(水土里ネット稲川)を 中央選考委員が視察

平成23年度 21世紀土地改良区創造運動現地視察



9月16~17日の両日、「21創造運動大賞中央選考委員会」の太田信介副委員長を始め、各委員及び全国水土里ネット職員が、昨年度「21創造運動大賞」を受賞した湯沢市の水土里ネット稲川(遠藤啓治理事長)を訪れ、活動状況などの現地視察を行った。

一行は、16日(金)に現地に到着し、水土里ネット稲川の事務所を訪れた。はじめに、同水土里ネット職員から地区の概要や21創造運動の取組状況などの説明を受け、その後、同水土里ネットの管内が一望できる稲庭城のほか、地区内に設置されている「標語

コンクールの看板」、地元小学生の施設見学会に利用されている「岩城頭首工」、復活した紙芝居の物語となっている「与惣右エ門堰」など地区内の視察を行った。

翌17日(土)は、同水土里ネットの21創造運動の原点ともいえる「2011どろんこ学校 in 東福寺ため池」の活動を視察した。「どろんこ学校 in 東福寺」は、同水土里ネットが地元農家らでつくる「東福寺ため池守り隊」や「東福寺資源保全会」と共に2005年から3年ごとに開催しており、今回で3回目となる。市内の小学生や園児など約30名が参加した。



当日は、遠藤校長(理事長)の挨拶に続き、ため池の役割などを学ぶ学習会が開かれ、子供たちは真剣な表情で説明に聞き入っていた。また、どろんこ学校のメインである「コイのつかみ捕り」に挑戦、泥だらけになりながらコイを追いかけていた。

どろんこ学校は、3年に1回のため池の水抜きに併せて実施され、ため池から用水路に泥水とともにコイ約50匹が流れ出し、子供たちは泥の中で大はしゃぎしながら懸命にコイを探し、次々に捕まえていた。30cm以上の大物を捕まえ、高々と掲げる子供もいた。各委員も長靴に履き替え、子供たちと一緒に泥んこを体験するなど、まさにどろんこ学校の名に相応しい授業風景の現地視察となった。



2011 秋田県中山間ふるさと 水と土『現地見学会』in 鹿角

— 鹿角地域の魅力に触れる1日 —

平成23年9月3日(土)、本県中山間地域等の農業・農山村が有する自然、景観、伝統文化・芸能、郷土食などの地域資源の魅力について、広く県民の方々に関心を持ってもらい、農地や土地改良施設などの保全・利活用について理解を深めていただくとともに、中山間地域等の活性化につながる支援体制を構築することを目的に、鹿角市において現地見学会を開催しました。

通算8回目となる今回も、50名の募集に対し80名余りの応募があるなど毎年人気の見学会となっています。

当日は天候にも恵まれ、農業用施設でもある花輪大堰や伝統のある花輪の市日、渡部家資料館の見学、水沢地区の棚田保全のため集落が取り組んでいる活動の説明を受けるとともに、花輪ばやし、水沢盆踊り太鼓などの地域芸能の鑑賞を通じ、地域の方々と参加者の交流を図りました。



見学場所 / 昼食 / 地域芸能

『水沢地域』では、集落の現状や農地保全活動の取り組みについて説明を受けました。標高が高く、営農条件は極めて不利な地域ですが、集落全戸参加による草刈りや水路の維持管理・補修作業で集落全体の協調性が高まるとともに、農地を自分たちで守るという意識が強くなり、生産意欲の向上にもつながっているそうです。